

第2回長野県安曇野地域における公共交通システムの構築に関する検討会 会議概要

1	委員会名	長野県安曇野地域における公共交通システムの構築に関する検討会
2	日時	平成18年8月31日(木) 午後1時30分～3時15分
3	会場	堀金総合支所 301号会議室
4	出席者	奥山委員、秋山委員代村上委員、小林委員代吉沢委員、小林忠由議員、小岩井委員、耳塚委員、樋口委員、藤原委員、尾台委員、二木委員、鎌崎委員、小林忠孝委員、米倉委員、会田委員、黒岩千委員、岡村委員、水谷委員代米倉委員、古澤委員、宮崎委員、曲淵委員、黒岩豊委員、土肥委員、堀田委員、久保田委員、小林善委員、八木委員、浅見委員
5	国出席者(委員以外)	熊井首席運輸企画専門官、高橋運輸企画専門官
	市出席者(委員以外)	飯沼企画政策課長、猿田企画担当係長、上條企画員
	NTT出席者	矢沢、天田、青木、石垣
6	公開・非公開の別	公開 傍聴者1人
7	記者	2人
8	会議概要作成年月日	平成18年9月6日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会 (熊井首席運輸企画専門官)
 - ・業務委託業者紹介 NTT東日本
- (2) 挨拶 (奥山教授)
- (3) 議題 (事務局)
 - ① アンケート調査の実施状況について
 - ② 観光実態調査の実施状況について
 - ③ ワークショップ開催状況について
 - ④ その他
 - ・生活交通確保のための施策について
- (4) 閉会 (熊井首席運輸企画専門官)

2 協議概要

- ①アンケート調査の実施状況について(事務局より説明)
- ・7/10 第一回検討会でのご意見等を検討し、アンケートを修正した。
 - ・8/11 住民の皆様へ発送し、8/25 投函期限で実施した。
 - ・実施数 16,328 通配布 回収 8,000 通(8/30 現在) 回収率約49%
- 座長：質問、ご意見がありましたらお願いしたい。 無し。

- ②観光実態調査の実施状況について(事務局より説明)
- ・現地ヒアリング 5施設で3日間実施し、回収件数は1,134件
 - ・宿泊施設等実態調査 6施設で実施し、回収件数は394件
 - ・現地ヒアリングの各問に対する、選択項目の単純集計結果報告。
 - ・詳細な分析結果は次回検討会に提出予定。

座長：観光実態調査の実施状況及び単純集計結果は濃密かつ興味深いものがある。この結果を生かす方向で進めたいがご意見をお願いしたい。

委員：観光実態調査で88%が自家用車で移動との結果だが、予想どおりか、公共交通を検討する中で、このアンケート結果では読みきれない部分がある。

事務局：本日お出ししたデータは単純集計であり、今後クロス集計を行い結果が見えてくる。過去の情報から車での移動は多いことは想定していた。車以外で訪れた方が満足なのかどうか等注目して集計、分析を進めていく。また、細かいご意見等も探っていく。

委員：今回のアンケートは、時期的にお盆であり帰省も含めた観光客である。9.10月の観光シー

ズンでは違った傾向があると思われるがこの期間のアンケート調査を実施する予定はあるか。
事務局：現時点では、この期間中の集計結果を見て参考にしたい。他の時期に調査する予定は考えていない。

委員：クロス集計結果を見てからとする。今回は宿泊施設、観光施設の調査であるが、可能であればJR 駅での調査も検討していただきたい。

委員：安曇野市で景観形成住民協定締結地区連絡協議会が始まっている。会長は、観光、道路に密接な関係があるため、検討会に出席をしていただいたほうがよいのではないかと。

事務局：実際に協議を進めていく中で、加わっていただいたほうがよい方がいれば、オブザーバ等で参加いただくことは可能と考えている。

座長：次回に向けていくつかお願いをしたい。

- i) 立ち寄り場所を地図上で整理してほしい。また、観光地、宿泊地等の場所も同様に位置関係を整理し、動線で結んだ、図での整理をお願いしたい。
- ii) 観光周遊バスの今年、またはこの時期の観光実績、運行内容、運行サービス等を運輸局経由で数字も含めまとめてほしい。(年間シーズン分)
タクシーでの観光需要、観光実績データ(年間、月別)をご協力いただきたい。
- iii) 観光年齢が若い方が集中していることもあり、主要な観光イベントの情報(1年間)を整理していただきたい。(シーズンマップ)
- iv) 自家用車が多いことから、環境コストのデータ(1台当たりどの位動いたか)、主要観光地等標準的な距離、安曇野内の距離を整理していただきたい。経済コストの平均を持っていたほうがよい。標準的な移動時間、渋滞コストの情報も推定でよいので整理したほうがよい。
- v) 施策としてパークアンドライド等を検討しているのであれば、方針を示してほしい。観光全体の施策でもよいので、検討材料として示してほしい。
- vi) これだけのデータがあるので、ここでするかは別として一つの施策として、定期的にデータを取ればよい。

委員：平地観光だけのデータだが、この地域は山岳観光もある。自家用車・JR・バスの人数は同じくらいである。山岳観光者のデータも取らないと観光全体の調査とはいえない。朝4～5時にはくる。ルート、宿泊も調べたほうがよい。

事務局：ヒアリング場所は、平地、10時～15時に行った。山岳観光等の情報は、タクシー会社、バス会社さん等の協力をいただき、ヒアリング等をさせて頂く中で内容を示したい。

③ワークショップ開催状況について(事務局より説明)

- ・ 安曇野市内全域住民対象 8/20 9:00～16:00 開催 41名参加(スタッフ含む)
- ・ 豊科地域住民対象 8/26 13:00～16:00 開催 36名参加(スタッフ含む)
- ・ 明科地域住民対象 9/3 9:00～12:00 開催予定
- ・ 他の地域(穂高、三郷、堀金)については、ワークショップ以外の方法でお年寄り等から意見を聞くこととします。
- ・ ワークショップレポート1 「課題シートまとめ」 8/20
- ・ ワークショップレポート2 「方向シート(住民が利用しやすい公共交通)まとめ」 8/20
- ・ ワークショップレポート3 「方向シート(観光客)まとめ」 8/20
- ・ ワークショップレポート豊科「方向シートまとめ」 8/26

座長：ワークショップの意見をまとめた報告について、確認、ご意見をお願いしたい。

委員：高齢者、障害者の方が、金融機関、駅、買い物、公共施設へスムーズに移動ができ、また、循環等ができるように作っていただきたい。

委員：ワークショップに参加したが、雰囲気もよく、多くの意見も出ていた。30名の募集に至らないのが残念。もっと、広報等でアピールしてほしい。参加者からは、1日でなく何回か分け行ってほしいとの話があった。また、交通システムがより具体的になってきて再度意見を聞くようになったら検討していただきたい。

事務局：ワークショップは活発にできてよかった。いろいろなご意見をいただきながら検討していきたい。

座長：9/3にも明科地域で開催されるので、要望等ありましたらお願いしたい。

委員：ワークショップで住民の意見をまとめることはよい。安曇野市の交通手段の利便性を良くして欲しいとしてバス循環の要望もあるが、オイルの問題（不足等）等、地球環境問題を考えると、バスの場合、時間を決めて走るため、乗客が無でもオイルを使うことになる。このような内容も考慮し検討していただきたい。

委員：ワークショップに2回出席した。今後の計画では参加を促して欲しい。安曇野市、豊科で出された意見で、循環も必要だが地域での催し時の交通手段がない。今後、地域での健康に関するイベントが増えてくるが、狭い範囲での交通手段も必要であり、安全に目的を達成するため、小型車両での運行を考える必要がある。ピークでの乗車率をベースに、コスト、環境を考慮し、小型で輪タク等を活用した、地域内で割り切った交通手段の考え方も検討して欲しい。

座長：ワークショップ、調査データをいろいろな角度で整理し、一定程度の方向性を検討していく中で、オイル問題、利便性、コスト等様々な視点で議論していければよい。より良い公共交通のあり方を検討していきたい。次回、よりつめた意見交換ができればよい。

④生活交通確保のための施策について（長野運輸支局 浅見委員より説明）

道路運送法等の一部を改正する法律

- ・ 5/12 に成立、10 月から施行。
- ・ 地方における生活交通の確保、交通弱者の交通手段確保が課題となっている。
- ・ 改正内容 1.コミュニティバス、乗合タクシー等の普及促進、2.市町村バスやNPOによるボランティア有償運送の制度化

座長：10月から道路運送法改正が施行される。地域交通に関する説明をしていただいたが、それぞれの立場で関係するところがあれば質問をお願いしたい。

委員：自家用有償運送の福祉有償運送での対象者は、身障者、要介護認定者以外の高齢者についての外出支援について含まれるのか。

委員：今現在、法律、規則等での対象者は、身体障害者、要介護認定者、要支援認定者、肢体不自由な障害者であり、施設への行き来が目的である。足腰が不自由な方までは福祉有償運送の対象と想定していない。

委員：現在路線バスが運行している区間で、乗合タクシー、乗合バス（貸切の特例行為）と競合できないが、今後の路線区間において乗合タクシーが競合できるということか。

浅見委員：今回の法改正により乗合運送の3つの乗合運送があるが、路線バスは路線定期運行に入る。今後乗合バス、乗合タクシーを走らせるためには、既存路線との必要性について、地域公共交通会議において協議を行い、協議が整わないうちは運行できない。

委員：可能性はあるということか。

浅見委員：地域公共交通会議での協議の結果による。

座長：福島県の例で行くと、4条免許を持っているバス事業者が4条免許を持っている地域で、21条によるデマンド交通を運行している。4条路線に対する影響度も含め、市町村が主体となってデマンド運行にかかわることが明確になっていること。4条路線に対する影響が軽微である事が明確に示されれば、旧法体系でも認められていた。それが、明確に地域公共交通会議が市町村主体で協議できれば、乗合免許で運行することができる。乗合事業に対する責任者をどう配置するか、詳細は、現在つめており時間がかかる。今後の検討で明確になれば、その都度、参考資料で配布していただく事をお願いしたい。

協議事項全体での質問、委員会としての切り口の視点、要望を出して欲しい。

委員：アンケート集計で満足度が87%と非常に高い数字となっている。こういった点で満足なのか今後の観光PR、交通手段の検討に必要なため出して欲しい。観光目的（なぜ安曇野なのか）、安曇野を知り得た手段を加えて欲しい。（口コミ、PR、交通会社等）

事務局：例えば、問6の安曇野へ訪れた場所3箇所等、報告は本日できていない。また、どんな点に満足、不満足なのか記述部分の集計がまだできていない。数字のみの単純集計とさせていただいている。次回に向けて、クロス集計結果を整理していきたい。

委員：法改正により、デマンド交通、乗合タクシーが実態に即している形だと思う。堀金、福島での例にあるが、デマンド交通の具体的な使い方について、また、堀金地域ではデマンド交通は通常のあり方なのか、アレンジしているのか、メリットがあるかといった資料を出して欲しい。

豊科地域のコミュニティバス「ぐるまる君」も武蔵野市のノウハウを取り入れていると思うが、具体的に通常の路線バスと違い、武蔵野市のどういう部分を取り入れていれているのか資料を出して欲しい。

事務局：資料を整理し、次回に向けて備えたい。

座長：デマンド交通ありきではないが、デマンド交通については事務局と相談していく。全国で27箇所に広まっている。無料の巡回バスを運行していたところが何故デマンドに切り替わったか、デマンドサービスはどのようなものなのかについて情報を出していく。

福島県小高町では導入から5年がたった今、13万人が利用している。利用者1人当たり26項目のデータを保有しており、現在データ分析を行っている。次回に向けて分析結果を出していく。

観光デマンドの切り口でも提案している。観光客の負担（経済的コスト、環境コスト）も視点に入れて、新しい方向性が、これからの委員会での有益なものであれば、事務局を通し、整理し委員会へ出していく。

その他の交通システムの情報（雑誌、インターネット）があれば、情報提供をしてほしい。委員の方のご協力をお願いしたい。

委員：山岳観光という話が出ていたが、豊科ICができてから、8～9割り近い方が自家用車で来ており増加している。観光面での交通機関ではパークアンドライドが良いのではないかと。長野県の特筆する北アルプスは、自家用車規制で行けないため、豊科ICに駐車場を設け、公共交通機関のバス、タクシーで、黒部、上高地、美ヶ原という所を定期的に結べればおもしろいのではないかと。

座長：可能性、切り口を出して欲しい。観光に関するアンケートを見ているが、何を目的に来ているのかという質問に、「自然」が上がっているのは非常に強み。連泊者が多い、宿泊が多いのは非常に良い。深みを持たず観光地として、交通をどうするか検討をしていきたい。いろいろな意味での思い入れを、この委員会に出して欲しい。

事務局へお返す。

事務局：第3回検討会の開催日程は9/26 午後1時30分に本会場で行う。

前回の検討会資料で、合併前の町村の交通施策負担状況、考え方を聞かれているが、それらを含め、NTTが調査のため聞き取りを行います。皆様のご協力をお願いします。

事務局：長時間にわたる協議ありがとうございました。

以上